

佐世保市地域公共交通網形成計画進捗状況
アクションプラン概要

アクションプラン対象
◎28年度以降に事業実施
●さらなる検討を実施（ほとんどは31年度までに実現を目指す）

基本方針	施策進捗状況(平成27年度～)とアクションプランの内容		対象	28年度 バス運行体制 調査
(1) まちづくりの軸となる利便性の高い公共交通ネットワークを形成する	① 幹線・支線ネットワークの構築	i) バス路線の幹線・支線の仕分け・サービス基準設定…バス路線のタイプ別の仕分け、役割に応じたサービス基準案に基づき今後、バス路線の維持・再編を行っていく。【バス事業者】	◎	○
	② 基幹的な路線の利便性改善	i) 基幹的な路線でのダイヤ改善（運行の等間隔化等）	●	○
		i) 補完系統の輸送サービスの改善（運行の等間隔化等）	●	○
	③ 市民ニーズに対応した補完的な路線の見直し	ii) 交通不便地区対策の充実（住宅地等）…検討対象地区のうち最も事業化の可能性のある日宇地区において超小型バスの導入を平成31年度実施をめざし検討する。その他の候補地については将来的な検討とする。【バス事業者運行】	●	
	④ 交通結節点の強化とそれを軸としたネットワークの形成	iii) 交通不便地区対策の充実（郊外の過疎地域など需要の少ないエリアにおいて赤字バス路線からデマンドタクシーへの転換を推進）…補完路線タイプ3の中で具体的な需要の基準（1運行あたり5人以下、かつ通勤通学利用が少数等）を決め、それに満たない6区間（世知原温泉線、浅子線、上三川内線、上木場線、上宇戸線、潜木線）を平成28年度から30年度にかけて転換予定 【タクシー事業者運行】 i) 交通結節点の整備・形成（交通結節点となる早岐駅のネットワーク機能を高める）…以下の2点の視点から検討する。 ・平成31年度までに路線を運行している西肥自動車により、田子の浦におけるバスの乗継利便性の向上や江上・針尾方面から早岐駅方面への便の確保の検討を行う。【西肥自動車運行】 ・早岐駅周辺のまちづくりの動向を踏まえながら長期的な観点にたって今後、バス路線の再編を行う。	◎	●
(2) 複数モードの連携により公共交通ネットワーク全体の利便性を確保する	① 鉄道ーバス、鉄道ー鉄道の連携による利便性向上	i) 鉄道とバスの乗継や競合区間の利用者選択の拡大 【西肥自動車と松浦鉄道】 ・西肥バス定期券利用者の一部対象者が松浦鉄道に半額で乗車可能となるサービスを平成28年10月より1年間の社会実験として行う。 ・佐々駅、佐々バスターミナルにおける鉄道とバスの世知原方面の連絡ダイヤの改善を平成29年4月より実施予定。	◎	
		ii) 鉄道ー鉄道（JRとMR）の連携による利用促進①…観光列車の視点 平成27年度は28年秋のデスティネーションキャンペーンに向け、JR・MR連携企画として相互乗り入れも視野に入れた中で検討されていたが、JR及びMRの列車等を利用する商品造成等を幅広く検討されている。		
		iii) 鉄道ー鉄道（JRとMR）の連携による利用促進②…定期運行の視点 将来的に検討		
		iv) 佐世保駅前における乗換・乗継利便性の向上…わかりやすいサイン表示等 平成28年1月に佐世保駅東口の自動ドア上記に「バス乗り場案内図」への案内サインと駅前広場にあるバス乗り場案内版の下部に「バス乗り場案内図」の表示を行った。		
	② 多様な交通モードとの連携	i) パークアンドライド施設や駐輪施設等の充実・活用 松浦鉄道の相浦駅に遊休状態の駐車場があるため、黒島教会の世界遺産登録も見据え、黒島旅客船との連携の1策として、駐車場の活用について検討中。（駐車場事業を行いたいところに土地を貸し出す等） その他、平成27年度には市観光課の予算で黒島に電動レンタサイクルを10台設置済み。		

バス運行体制一体化の検討【市とバス事業者】⇒最適な体制の下

長期

(3) 利便性を維持した持続可能なバス事業を実現する	① 需要と供給に見合ったサービスの適正化	i) 需要と供給に見合ったサービスの適正化	バス運行体制一体化の検討 【市とバス事業者】 ⇒最適な体制の下	●	○
	② 競合区間の見直し	i) 中心市街地に乗り入れる各路線の見直しを通じた適正化		●	○
		ii) 相浦方面の路線の見直し		●	○
		iii) 黒髪・もみじが丘、大宮方面の路線の見直し		●	○
		iv) その他路線の見直し		●	○
③ 車両運行効率化のための車庫等の既存資源の利活用	i) 事業者間の営業所機能等の融通 ii) 新たな車両転回・乗務員交代等の拠点の設置…車両転回の場合として中心市街地（松浦町付近を想定）を1つの案として検討を行う。	●	○	長期	
④ 共通定期券・事業者間の乗継割引の導入	i) 共通定期券・事業者間の乗継割引の導入検討	バス運行体制一体化の検討	●	○	
⑤ 労働力不足への対応、労働環境の改善	i) 労働力不足への対応、労働環境の改善	【市とバス事業者】⇒最適な体制の下	●	○	
(4) 公共交通の利用促進・需要創造を推進する	① 利用者・来訪者に対するわかりやすい情報提供の充実	i) 来訪者に対する情報提供の充実 転入者向けに支所管内別の公共交通案内情報を作成し、平成28年5月に各支所窓口に設置済み。			
		ii) 地域住民・利用者等に対する情報提供・意識啓発の推進 平成27年11月15日（日曜日）に本協議会主催で公共交通ふれあいフェスタを開催し、協議会の周知や小学生以下の子供や親を対象としたバスや鉄道の社会科見学等を行った。			
		iii) 佐世保駅前における乗換・乗継利便性の向上（再掲）			
		iv) バスロケーションシステムの導入検討			
	② すべての人が移動しやすい環境整備	i) 低床車両の導入促進…（バス事業の経営シミュレーション作成時は導入促進費を想定） 平成27年度は西肥自動車及び交通局とも6台のノンステップバスを導入した。			
		ii) バス停の乗り降りしやすい環境の整備 平成28年6月30日に道路管理者・公安委員会・バス事業者・市で協議の場を設け、バス事業者から出された改善要望箇所リストに沿って、道路環境の状況を確認し、対応できるところから改善に着手するよう取り組んでいくことを確認した。（別紙参照）			
③ 多様な交通モードとの連携	i) パークアンドライド施設や駐輪施設の充実・活用（再掲）				
④ ICカードの機能拡大	i) ICカードの更新を踏まえた機能拡大の検討 県内のバス事業者及び松浦鉄道で組織されるスマートカード委員会で検討中				
⑤ 地域が連携した各種利用促進策の企画・開発	i) 鉄道駅や停留所等の有効活用 最寄りの学校の生徒さんに作成して頂いた川棚バスセンター（西肥バス）のシャッターアートや松浦鉄道駅の壁画（鳴石・小浦・左石）により利用者に親しみを持って頂く効果が期待される。また、佐世保バスセンター（西肥バス）に人を集めるという視点からも、WIFI機能付きの佐世保の観光や情報を発信するタッチパネル式の電子掲示板を設置された。				
	ii) 観光・商業施策等との連携 iii) 健康・福祉施策等との連携… 長崎県立大学の学生と中心市街地の飲食店を連携させた公共交通の利用促進プランを平成28年度より実施する。 【県立大学：全体コーディネイト、バス事業者：回数券の作成販売、飲食店等：プランの作成、広告・チラシ作成、回数券の購入】	◎●			
⑥ ホスピタリティーの充実	i) 外国人来訪者等への対応…外国語標記の充実等 上記（2）ivの案内サインを設置する際、英語・中国語・韓国語の表記を行った。				